

■林田重男 映画撮影技師。戦時下の「黒い太陽」から戦後の「南極大陸」など学術事件を撮り続けた「記録映画の鬼」。

はやしだしげお

韓国併合・・・1910＝ 長崎県の島原に生れた。

明治天皇没・・・1912＝ 2歳：

ロシア革命・・・1917＝ 7歳：尋常小学校に入学。

ベルリン条約・・・1919＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝11歳：「松平賞」を得て卒業し、尋常高等小学校に進み、

関東大震災・・・1923＝13歳：卒業。

護憲三派圧勝1924＝14歳：長崎出身で映画の製作・輸入をてがけて成功していた梅屋庄吉の誘いで、上京、Mカシー商会に入社。撮影技術の見習いをしながら、早稲田大学付属の工手学校電気科夜間部に通う。

円本時代始・・・1926＝16歳：技術部見習いとなる。

共産党事件・・・1928＝18歳：

世界恐慌・・・1929＝19歳：さらに技術を磨くため、梅屋の勧めで、大阪の帝国キネマに移り、チーフ助手となる。

満州事変・・・1931＝21歳：会社が衰退、鈴木監督に従い、東京の不二映画製作所に移り、チーフカメラマンとなり、

五一五事件・・・1932＝22歳：「熊の出る開墾地」を撮影して、認められ、

国際連盟脱退1933＝23歳：鈴木監督の推薦で、南ボルネオのダイヤ族を撮影、

帝人疑獄事件1934＝24歳：同監督編集の記録映画「パンサ」として封切、高く評価され、記録映画カメラマンの第一歩を踏み出す。PCLに移り、満州に渡って、記録映画「鉄路新満州」を撮影。

二二六事件・・・1936＝26歳：*北海道での皆既日食の学術記録映画を担当、困難な条件を次々克服して、成功に導き、記録映画「黒い太陽」となって、日本映画技術賞を受賞。

日中戦争始・・・1937＝27歳：PCLが東宝になるに伴い、記録映画部門は朝日映画と別会社になり、戦場記録映画を担当。

第二次大戦始1939＝29歳：結婚。

大政翼賛会・・・1940＝30歳：戦局の進捗に伴い、軍の宣伝強化のため、日本ニュース映画社に統合、東南アジアを移動、撮影。

日米開戦・・・1941＝31歳：長女誕生。

・・・1942＝32歳：前線で急襲され、仲間は戦死、命からがら帰国。

創価学会検挙1943＝33歳：学徒出陣壮行会を撮影後、召集され、台湾で高射砲隊員となる。

敗戦・・・1945＝35歳：上等兵に昇進後、敗戦となる。

新憲法公布・・・1946＝36歳：島原に引き上げ後、再出発した日本映画社に招かれて、上京。

新憲法施行・・・1947＝37歳：長男誕生。

三大事件・・・1949＝39歳：*記録映画「海に生きる」で、日本映画技術賞。

独立回復・・・1951＝41歳：

メーデー事件・・・1952＝42歳：国連従軍記者の資格で、朝鮮戦争を取材。

TV放送始・・・1953＝43歳：記録映画「朝鮮の悲劇」となる。

55年体制始・・・1955＝45歳：*八甲田山撮影中、ヘリコプタの乗員が遭難、本社からの取材命令を拒否して、救助にあたる。京都大学の「カラコルム」学術探検に同行して、撮影、日本人による初の長編カラー記録映画となり、

国連加盟・・・1956＝46歳：ベルリン映画祭で受賞、国内の賞を総なめにした。南極予備観測隊に同行、

なべ底不況・・・1957＝47歳：極地で撮影、「南極大陸」は、その直前の「黒部峡谷」とともに、アジア映画祭で最高賞。

インサントマン・・・1958＝48歳：この年、妻が死去。のち、再婚。二人の妻が留守がちな家を支えた。「深海3000メートルの神秘」。

安保闘争・・・1960＝50歳：

全国総合計画1962＝52歳：「フランスの近代美術」、

TV宇宙中継始1963＝53歳：「すまいの伝統ー日本の建築」、

東京リビック1964＝54歳：

美濃部都知事1967＝57歳：モントリオール万博の記録映画「人間とその世界」、

全共闘クー・・・1969＝59歳：「東京オリンピック」。日本映画社の重役となるが、カメラを手放さず。

大阪万博・・・1970＝60歳：大阪万博向けの映画「風と光と土の中から」、

石油ショック1973＝63歳：

グランプリ事件1975＝65歳：テレビ用ドキュメント「再起の加藤保男マッターホルンを完登」、

貿易摩擦問題1980＝70歳：*日本映画社を勇退。

中曽根内閣・・・1982＝72歳：

ジャンボ機墜落1985＝75歳：心不全で没した。